



Title	Throphoblast-Derived Interleukin-1 (IL-1) Stimulates the Release of Human Chorionic Gonadotropin by Activating IL-6 and IL-6-Receptor (IL-6) System in First Trimester Human Trophoblasts
Author(s)	益弘, 和雄
Citation	大阪大学, 1991, 博士論文
Version Type	
URL	https://hdl.handle.net/11094/37636
rights	
Note	著者からインターネット公開の許諾が得られていないため、論文の要旨のみを公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、大阪大学の博士論文についてをご参照ください。

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

氏 名	益 弘 和 雄
博士の専攻分野の名称	博 士 (医 学)
学位記番号	第 9919 号
学位授与年月日	平成 3 年 10 月 14 日
学位授与の要件	学位規則第4条第2項該当
学位論文名	Trophoblast-Derived Interleukin-1 (IL-1) Stimulates the Release of Human Chorionic Gonadotropin by Activating IL-6 and IL-6-Receptor (IL-6R) System in First Trimester Human Trophoblasts (初期絨毛細胞における IL-1 の IL-6 及び IL-6 レセプターを介した絨毛性ゴナドトロピン分泌調節機構)
論文審査委員	(主査) 教 授 谷澤 修 (副査) 教 授 岸本 忠三 教 授 中野 俊夫

論文内容の要旨

〔目的〕

ヒト絨毛細胞から分泌されるホルモンの一つにヒト絨毛性ゴナドトロピン（以下 hCG）があげられるが、その生理作用及び分泌調節機構に関してはまだ解明されているとは言えない。今までに報告されている調節因子としては GnRH, epidermal growth factor, gonadal steroid, IL-6 等があげられている。我々は絨毛細胞から IL-1 及び IL-6 が分泌されていることは既に報告したが、今回著者は IL-1 が絨毛細胞からの hCG 分泌調節系に与える影響を IL-6 との関連性に注目して検討した。

〔方法ならびに成績〕

人工妊娠中絶時に採取した初期絨毛組織（妊娠 7～9 週）をコラーゲナーゼ及び DNase にて 37℃, 50 分間処理後、60% Percoll を用いて絨毛細胞を purify した。細胞の viability はトリパンブルーにて検定した。遊離した絨毛細胞を 2×10^5 / well に調節し、10% FCS を含む培養液中で 48 時間単層培養後、上清を廃棄洗浄し実験に供した。Escherichia coli-derived human recombinant IL-1α 及び β（以下 rIL-1α 及び rIL-1β）で絨毛細胞を刺激し、上清中の hCG β 及び IL-6 の分泌量を測定した。hCG β は enzyme immunoassay 法（持田）を用い、IL-6 は IL-6 依存性増殖細胞である MH 60・BSF2 を用いた bioassay 法にて測定した。また IL-6 レセプター（以下 IL-6R）のうち、gp 80 に対しての特異モノクローナル抗体である PM-1 を用いて IL-1 による絨毛細胞よりの hCG 及び IL-6 分泌に与える影響もあわせて検討した。

その結果、各 well の絨毛細胞に rIL-1α 2.0 μg/L を添加した群と無添加コントロール群とで経時

的（0～24時間）に上清中に分泌される hCG β を測定したところ、添加後 150 分～12 時間まではコントロール群に比して有意に増加したが 12 時間以降はコントロール群と有意差はなかった。また添加する rIL-1 α の濃度を変化させ（0.02～200 $\mu\text{g}/\text{L}$ ），上清中の hCG 分泌量を検討したところ濃度依存性に hCG 分泌量は有意に増加した。同様の系で rIL-1 α を 2.0 $\mu\text{g}/\text{L}$ 添加した群と無添加コントロール群とで経時的に上清中の IL-6 を測定したところ、rIL-1 α 添加後 60 分でコントロール群に比して有意に増加した。またそれが IL-6 分子であることをヤギ抗 IL-6 抗血清を用いて確認した。この系に IL-6R の特異モノクローナル抗体である PM-1 で前処理した後に rIL-1 α を添加した際、上清中に分泌される hCG は rIL-1 α 単独刺激群に比して有意に抑制されていたが IL-6 分泌量に影響は与えなかった。さらに、IL-1 と IL-6 が絨毛細胞よりの hCG 分泌に対し synergistic に作用しているかを検討するために maximal dose の rIL-6 と濃度を変化させた rIL-1 α を同時に同様の系に添加し hCG 分泌量を測定したが synergistic な効果は認められなかった。以上の結果は rIL-1 β を用いた実験によっても同様であった。なお rIL-6, MH60・BSP2, 抗 IL-6 抗体及び PM-1 は大阪大学細胞工学センターの岸本教授とバイオメディカル教育研究センターの平野教授の恵与による。

[総括]

以上の研究成果より次の結論が得られた。

- 1) IL-1 は絨毛細胞より IL-6 及び hCG の分泌量を増加させる。
- 2) IL-1 の hCG 分泌促進機序は IL-1 の直接作用ではなく IL-6 及び IL-6R を介している。すなわち IL-1 は絨毛細胞に存在する IL-6, IL-6R 系を介して細胞内情報内伝達経路を賦活化させ hCG の分泌を調節していることが証明された。

論文審査の結果の要旨

ヒト絨毛性ゴナドトロピン（hCG）の分泌調節機構についてはこれまでまだ完全に解明されているとは言えない。今回、ヒト絨毛細胞を用いてサイトカインの一つである interleukin-1 (IL-1) が hCG 分泌調節系に与える影響を IL-6 との関連性に注目して検討を行ない IL-1 が IL-6 及び IL-6 レセプターを介して hCG 分泌を促進していることが明らかになった。本研究は hCG 分泌機構の一端を明らかにしたもので学位論文に値するものと考える。